

## 2. ベトナム拠点を中心とした協力協定締結施設間連携強化とその関連施設の臨床部門における人材育成

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

### 【現地の状況やニーズなどの背景情報】

これまで JICA 事業を通して、NCGM はバクマイ病院（BMH）に海外拠点（MCC）を、またチョーライ病院（CRH）とも昨年協力協定（MOU）を締結

### 【活動内容】

両施設ともに新施設の増設に伴う各診療科強化する。臨床分野における協力を進める。今年度は、病院管理、看護管理、血液内科、麻酔科等があり、それぞれの分野で臨床能力強化を目標としている。

### 【期待される成果や波及効果等】

JICA の技術協力案件と相まって、日本の援助、技術等に関する認知度が高まること、NCGM 内での国際協力に対する関心度が高まることが期待される。

### <研修実施結果>

専門家派遣

4月 専門家派遣

・チョーライ病院学会発表専門家参加

6月 専門家派遣（麻酔科医師、看護師）

7-9月 専門家派遣 血液内科医師

11月 研修生受入（医師1名：脳外）

1月 専門家派遣（看護2名）

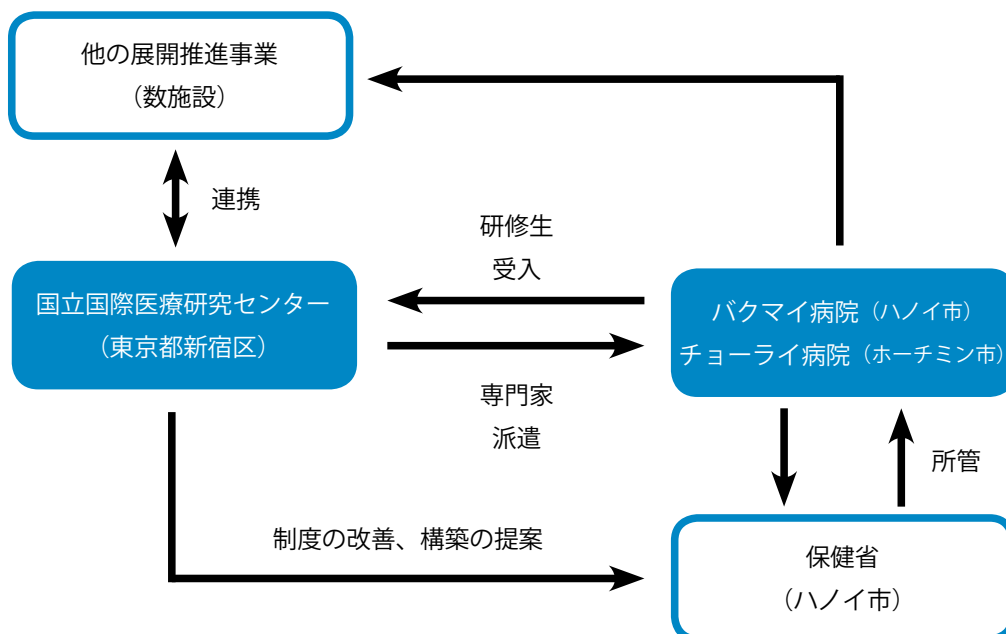
研修生受入

7月 研修生受入（医師4名）

10月 研修生受入（医師2名）

10月 研修生受入（医師2名）

11月 研修生受入（看護師）



ベトナム拠点を中心とした協力協定締結施設間連携強化とその関連施設の臨床部門における人材育成について発表させていただきます。この事業は国際医療協力局が取りまとめをしていますが、実際の専門家派遣、本邦研修に関しては病院部の各診療科に協力していただき実施しています。

本案件は、日本の医療、看護技術、医療保険システム等に関する診療技術の向上及びバックマイ事務所の確保、NCGM 間の連携強化、NCGM 病院内での国際医療協力に関心のある医師の確保、医療の国際協力の関心が高まることを期待されることを目的として実施しています。

国際事業 (2016年4月-2017年3月)											
活動	参加人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	訪問・参加者施設
チョーライ病院 セミナー	2	4日間									チョーライ病院
事前調整 (NCGMベトナム拠点)	3		1週間								チョーライ病院・バックマイ病院
本邦研修:血液内科	2							2週間			チョーライ病院、バックマイ病院
本邦研修:看護管理	2							2週間			チョーライ病院
本邦研修:救急看護	2							2週間			チョーライ病院
本邦研修:麻酔科	2							2週間			バックマイ病院
本邦研修:病院管理(バックマイ病院)	2							5日間			バックマイ病院
本邦研修:病院管理(チョーライ病院)	2							5日間			チョーライ病院
専門家派遣:血液内科	2							4日間			チョーライ病院・バックマイ病院
専門家派遣:看護管理・救急看護	3							5日間			チョーライ病院・バックマイ病院
専門家派遣:麻酔科	2							4日間			バックマイ病院

この案件はバックマイ病院とチョーライ病院と協力協定を結んでいますので、その2つの病院と協力を実施しました。向こう側の希望としては、2016年度に実施した4分野に加えて、耳鼻咽喉科や小児外科、心臓外科等の希望があったのですが、NCGM できることということで看護管理、病院管理、血液内科、麻酔科において事業を実施しました。反面、病院内での国際協力への関心を向上させることを大きな目的としていて、年々、参加する診療科は増加しています。

こちらの表が全体の実施内容になります。青い部分が専門家派遣の部分で、ピンクの部分が混合研修になります。血液内科、看護管理、救急、看護、麻酔科、病院管理について、バックマイ病院とチョーライ病院から院長先生、国際部長先生にいらしていただき、授業を実施しました。全体では5コースになっています。それでは、各診療科の説明をさせていただきます。



## 血液内科

**本邦研修 (2名 2週間)**

- 自己抹消血幹細胞移植見学
- NCGMの血液内科の役割、診療、血液内科検査室・輸血管理・品質管理
- システムバイオ・メディカル・ラボラトリー社 (BML)
- 第78回日本血液内科学会参加

**フォローアップ (専門家派遣2名)**

- チョーライ病院・バックマイ病院訪問
- 血液内科診療状況、検査実施状況の確認
- 患者安全、感染管理の徹底を指導
- 病室管理・環境整備

血液内科においては、2名の医師が日本で研修を受けました。バックマイ病院の血液内科では検査を各病棟で行っているため、特に検査について教えていただきたいという希望がありました。そこで、NCGM センター病院で実施している検査の方法や、外部委託しているシステムバイオ・メディカル・ラボラトリー社 (BML) に行きまして、検査の状況を研修していただいています。その後フォローアップに行きまして、チョーライ病院とバックマイ病院を訪問し、検査の実施状況を確認し、患者安全、感染管理の徹底を指導しています。




## 麻酔科

**本邦研修 (2名 2週間)**

- NGCM手術室 (術前、術中麻酔管理、術後管理)
- 手術室・ICU・SCU・HCUの麻酔医、看護師の業務
- 医療器具の準備業務や手術後の片づけ、消毒
- 手術室の配置や患者の導線
- 中央材料室見学
- 麻酔科外来 (ペインクリニック) 見学
- 国府台病院 (透視下神経ブロック)
- 成育医療研究センター (生体肝移植手術)

**フォローアップ (専門家派遣2名)**

- 手術室における安全・感染管理
- WHO安全チェックリストの導入
- 疼痛管理
- ペインクリニックの現状・理論についての講義
- 超音波ガイド下神経ブロック指導
- 硬膜外ブロック指導

次は麻酔科です。本邦研修では、麻酔全般の術前、術中、術後の管理のほか、手術室における物品の準備や片付け、消毒などを学んでいただきました。また、手術室の感染管理を考え、手術室の配置や患者の導線をどのようにするかを学んでいただいています。その他、麻酔科の方がとても興味を持たれたのがペインクリニックでした。ベトナムではペインクリニックはまだ実施されておらず、この分野をやっていききたいという意見も聞かれました。国府台病院では透視下神経ブロック、成育医療研究センターでは生体肝移植の手術の一連の流れを見ていただきました。フォローアップでは、手術室における安全・感染管理の部分を中心に、WHO 安全チェックリストの導入、疼痛管理などの講義や、神経ブロックを指導し、実施の手本を見ていただきました。

## 看護管理

昨年度の活動からのフォローアップ (専門家派遣2名)

チョーライ病院学会にて「医療関連機器圧迫創傷に対する褥瘡対策チームの取り組みの検討」口演発表




看護管理の分野ですが、2015年度からこの拠点を中心とした病院間の連携強化を行っているため、看護管理について

ては2015年から継続して行っています。そのため、2016年度4月にチョーライ病院で実施された学会で、医療関連機器圧迫創傷に対する褥瘡対策チームの取り組みの検討などを発表しています。




## 看護管理・救急看護

**本邦研修(2名 2週間)**

- > 看護管理(看護部の組織、看護師長の役割と業務)
- > 救急救命センター
- > Basic Life Support (BLS) 研修参加
- > 教育委員会見学
- > 患者アセスメント・トリアージ・初療看護
- > 倫理調整・家族ケアについて
- > 新人教育プログラムについて
- > 皮膚・排泄ケア認定看護師の役割と活動

**フォローアップ(専門家派遣2名)**

- > 救急外来・脳外科ICU・呼吸器病棟状況把握
- > 教育計画(看護管理者・スタッフ教育)
- > 救急看護管理
- > 患者安全(ポケットマニュアルの作成、ネームバンド)
- > チーム医療の必要性

今年度は看護管理と救急看護を学びたいという希望がありましたので、看護管理、看護部の組織や看護師長の役割や業務、救急救命センターの役割、BLSの研修参加、新人教育や教育委員会の見学等々を行っています。フォローアップにおいては、チョーライ病院とバックマイ病院を訪問して、各診療部門の状況を確認し、質の対策として一緒に開発した患者安全のポケットマニュアルの活用について検討を行いました。

## 病院管理:




**本邦研修(2名 1週間)**

バックマイ病院: 院長・国際部長

**本邦研修(2名 1週間)**

チョーライ病院: 院長・国際部長

NCGMセンター病院  
国際感染症センター・医療安全の取り組み・日本の保健医療システム  
臨床研究センター・第一三共株式会社品川研究開発センター  
日本の病院情報システム(医療情報管理室)・人間ドックセンター

九州国際重粒子線がん治療センター

病院管理については、チョーライ病院の2名、バックマイ病院の2名がそれぞれ別々に1週間ずつ研修に来ていただいております。病院全般を見ていただき、NCGMが強化している国際感染症センターや臨床研究センター、人間ドック、日本の病院情報システムを中心に見ていただいております。両病院ともに電子カルテへの関心が高く、それに関連した協力を要請されていました。

## 事業成果

### 共通事項: 患者安全・感染管理への対策

#### 各分野における臨床能力強化

- ・血液内科: 血液内科における検査の実施状況
- ・麻酔科: WHO安全チェックリストの導入  
疼痛コントロール、長時間手術管理
- ・看護管理・救急看護: 院内教育、患者安全、救急体制  
WOCなどの認定看護師の活動
- ・病院管理: 今後のNCGMとの協力、

事業成果ですが、各分野で新しいことを導入していますが、共通事項として患者安全・感染管理への対策が挙げられました。

## 今後の課題

- ・各診療科間の協力体制から病院全体の課題(患者安全、感染対策など)への対策
- ・チーム医療の強化
- ・チーム医療強化のための研修内容の構築
- ・NCGM病院部からの参加希望の増加
- ・JICA事業、展開推進事業を実施中の他施設、企業との連携

今後の課題ですが、今までは各診療科間の協力体制について対策を行っていましたが、やはり病院全体としての課題、特に患者安全、感染対策などが挙がってきています。そのような課題に対して、各事業に入り込んではいませんが、それを中心とした研修を組んでいるわけではないので今後はどのようにしていくか考えていく必要があります。また、それを実施していくためには、チーム医療を知っていかないとなかなか評価できないため、各科の研修に加えてチーム医療強化のための研修内容を構築していかないと考えています。そしてNCGM病院部からの参加希望が増加してきていますので、それをどう調整していくかも課題になってきています。今回の研修員受け入れに関しては、ベトナムのトップの病院が対象であるため、かなり高度医療に関する研修を希望されるのですが、NCGMだけでは対応できない部分もたくさんありますので、今後は他の事業を展開している施設や企業との連携が必要だと考えております。

以上です。ありがとうございました。